



子どもの学びと教師の学びは相似形

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

「子どもの学びと教師の学びは相似形である」、これは「独立行政法人教職員支援機構」（主に国公立学校の教職員に対する研修、教育職員免許法に基づく免許状更新講習の認定や教員資格認定試験を行う国の機関）が現在、強調している言葉です。この言葉の意味は、端的に言えば、「教師の資質の向上を図ることは、子どもの教育を充実することに他ならない」ということです。つまり、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、子どもの学びのみならず、教師の学びにもまた求められており、私たち教師には、子どもの学びのロールモデル（手本）となることが期待されているということです。

教師の学びを支える機会は「研修」です。その「研修」に係る根拠法令は、「教育基本法第9条」と「教育公務員特例法第21条」です。それらの法律に、「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励むこと」、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」等の内容が示されています。

しかし、今年7月に、教師の研修を支えていた柱の一つであった「教員免許更新制」（平成21年4月1日より導入され、教員免許状に一定の有効期間が付され、有効性を維持するためには、所定の手続（更新講習の受講と免許管理者への更新等申請）が廃止されました。このことから、子どもたちが自身の資質・能力を着実に育むという学校の使命を果たすためには、教師一人一人が研修に努めることはもとより、学校において校内研修体制を確立するなど、組織を生かして研修の充実を図ることが求められることになりました。

さて、本校における「研修」はどうなっているのでしょうか。本校は下に示した「研究主題」の実現を目指し、ベクトルを合わせて授業改善に取り組んできました。現在、その成果を広く管内に発信し、更なる研修の充実を図るため、11月17日（木）の「公開研究会」に向けた準備（全教員が研究主題の実現に向けた授業改善を推進等）を進めています。当日は本校の代表として第3学年担任の稲村教諭が算数科の授業を公開します。また、先月28日には、公開研究会の「プレ研」として、第2学年担任の成田教諭が本校を代表して算数科の授業を公開しました。全体協議の中で、釧路教育局の指導主事から、本校の研究の

成果と課題について指導助言をいただきましたが、全ての教師が指導助言の一つ一つの言葉を聞き漏らすまいとしてメモを取っていました。全体協議終了後、津田教諭と岡村教諭は、指導主事を引き留め、自身の課題解決に向け、指導助言を求めています。

このような一人一人の授業に対する真摯な学びの蓄積が教師としての力となり、それが子どもたちの学びに反映していくのだと思います。「子どもの学びと教師の学びは相似形」という言葉を常に意識し、今後も授業改善を加速させていきたいと考えているところです。

茶内小学校校内研修「研究主題」
主体的に学ぶ子どもの育成
~学びに向かう力を刺激する様々な工夫をした授業改善を通して~

